

第2回総合計画審議会での意見一覧

資料1

第2回／R6.6.28				
No.	項目	意見・要望事項	委員会での回答内容	検討案
1	目指すまちのすがた全体	「福祉」に関するワードがどこにも出ていない。少子高齢化社会において「福祉のまち」、「高齢者が元気に暮らしていけるまち」といった視点も必要ではないか。	直接的には表現していないが、案4の「若者から高齢者まで全世代が元気で暮らせるまち」というところから「福祉」というところの繋がりを表現している。高齢者や福祉といった分野は一つのテーマに相当する重要な内容であると考えため、一行で集約する場合には、「福祉」という言葉をどこまで踏み込んで表現するかという点については、引き続き議論していきたい。	目指すまちのすがた、将来像は、総合計画の構成の中で一番頭にくるもので、全世代に関係し、全政策に繋がるような表現をしたいと考えます。「福祉のまち」、「高齢者が元気に暮らしていけるまち」といった視点も持ちながら、福祉施策を行うことで、目指すまちのすがた（将来像）へ繋がっていくものと考えます。
2	目指すまちのすがた案4	「若者」というのはどの年齢層のことを指しているか。	明確な定義はないが、人口戦略会議の話の中で若年女性人口は20歳から39歳までとされており、高校を卒業するタイミングで進学や就職等で市外へ出ていくケースも多いことから、高校卒業頃からというところで、おおよそ20歳から子育て世代の39歳ぐらいの年齢層をイメージし「若者」と表現している。	—
3	目指すまちのすがた案4	0歳児の段階から生まれた場所に愛着を持って育っていくことがまちづくりに必要なことであると考えたとき、「若者」というより「こどもから」と表現する方がよいのではないか。		「こどもから大人まで」、「全世代が」という表現を取り入れたいと思います。
4	目指すまちのすがた全体	第3次ではすべて「まち」と表現されているが、将来像にはできれば「小城市」という言葉を入れた方が、市民にはイメージが湧き、より目指すべきまちの姿に近づくのではないか。		第2回の説明時は「まち」と表現していたが、最終的な将来像には「小城市」という言葉を入れます。
5	目指すまちのすがた全体	市として今後10年で一番力を入れるべきところがどこなのか、市の戦略的なところが、一番頭のスローガンの中に見えるほうがよい。	第2次では、重点的に取り組む内容として重点施策というものを設定しているが、第3次においても、市として何を重点的に推進していくのかという議論については、これから基本計画の策定を行うなかで基本構想との繋がりが意識しながら継続して議論していくべきことであると感じている。	政策、施策を決めていく中で、第3次小城市が特にどの分野に力を入れていくかを議論していきますので、政策、施策の中で市の戦略的な部分に見える化していければ、目指すまちのすがた（将来像）へも繋がっていくと思います。
6	目指すまちのすがた全体	市の目指すべきすがたは、具体的な施策や取り組みにつながる表現であるべきではないか。案1や案3の「好き」や「誇り」、「笑顔」といった、直接事業とは結びつきにくい表現では、具体的に何をどうめざしていくのかというところが分かりにくい。	総合計画の構成を踏まえると、一番頭にくる将来像が直接事業に結びつく表現というのは、少し難しいものがある。今後、基本計画の議論を進めていく中で、将来像との整合がつかないところがあれば、立ち返って議論していきたい。	政策、施策との関連性を図示しながら、目指すまちのすがた（将来像）を説明したいと思います。
7	目指すまちのすがた全体	現行の計画の将来像である4文字造語と比較すると、非常にわかりやすい言葉で表現されており、それが施策に落ちていくという風な見方ができる。	—	第3次の総合計画では、造語ではなく、誰が見ても将来のまちの姿が思い浮かぶような分かりやすい言葉を選びたいと思います。
8	目指すまちのすがた全体	若い世代も一緒になってまちづくりができるところが小城市のよいところであり、いろんな年代や多様な個性を持つもの同士が共に生きていく、暮らしやすいまちというのが一番表にまわって一つ出てくると非常によい。		若い世代も含め全世代がまちづくりに参画できることが全世代が主役のまちであると考え、将来像の1つの案したいと思います。
9	目指すまちのすがた全体	歴史、文化などの資源とともにデジタルとの融合という視点も取り入れていただきたい。		デジタルの重要性、デジタルとの融合という視点については、施策の中で取り入れていきたいと思います。
10	計画全体	横文字は使わないほうがいいのか。また近年、市民幸福度を示すキーワードとしてよく用いられる、Well-beingの指標の位置づけについても検討していただきたい。		横文字の使用についての制限はありません。市民幸福度については、市民会議の場でも話題にあがっており、計画全体の中で幸福度について整理をしていきたいと思います。